

職員による自己評価

A環境面

・室内の安全チェックを実施し設備不備による事故怪我を未然に防ぐ

B児童への支援内容

- ・活動内容を季節ごとで設定し、利用者にも季節感がある活動の提供ができていた。
- ・事業所内の掲示板、ICTを活用し、顔を見合わせなくとも情報共有できるよう工夫した
- ・日々の様子を毎回記録し情報共有に努めた

C関係機関との連携

- ・基幹相談と連携
- ・移行支援としてスマイルプランを作成

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・家庭の困り箇所に対し、対応方法を見学する案内を行う
- ・送迎時だけでなく、定期的に面談を実施しより綿密に家庭状況の把握を行う

E非常対応

- ・月に一度の避難訓練、及び年間で数度の研修を実施
- ・虐待防止/身体拘束適正化委員会の設置
- ・ヒヤリハットの共有を行い再発防止に努めている

保護者による評価

A環境面

コメント無し

B児童への支援内容

- ・コンプリオでの写真や動画などありましたら、たまに見せて頂きたいです。
- ・身だしなみや服装に関する助言、助かりました。
- ・子供が、本当に楽しく過ごせているみたいで、ありがたく思っています

C事業所からの情報発信

コメント無し

D非常対応

コメント無し

事業所内での分析

【共通点】

- ・情報提供がご家族のニーズにマッチされていると思われる

【相違点】

- ・事業所内で行っている直接的なケアの細やかな内容や、ケアに関連する取り組みや工夫など、保護者への発信が不十分なために共通の理解となっていない箇所が多々あると思われる
- ・写真や動画などの公開、参観の実施など、過ごしの様子が直接わかる機会が求められている

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・統一されたアセスメントツールを用いることで対応の統一がされている
- ・食事、移動、衣服の調整など、日常生活に関する助言が行われている
- ・事業所設備の安全管理に努めている
- ・季節感を感じる活動を取り入れている
- ・職員間の情報共有に漏れないよう都度方法を改善している
- ・保護者とのコミュニケーション機会が多く連携を取りやすい状況にある
- ・社内資源を活用した定期的な研修の実施など支援の質を上げる機会が設けられている

事業所の改善点

- ・過ぎの様子をより分かりやすく保護者に伝えられるよう方法を探りたい
- ・保護者会の開催など保護者同士の横のつながりの機会設定
- ・支援方法やツールの活用方法などベテラン職員から経験の浅い職員に引き継ぐことでケアの質向上に努めたい
- ・ミーティングの機能性を上げるため、モニタリングの効率化を図る
- ・生活年齢に合わせた情報の提供

事業所の改善への取り組み

- ・ケア中の様子を定期的に撮影し、製作した作品に載せるなどで保護者へ公開する機会を設ける。
- ・生活年齢ごとに使用されている物品等の情報収集を行い、定期的に保護者へ公開する。
- ・職員へのスキル指導を行い、さらなる質の向上に努める
- ・参観日を開催し、過ぎの様子や対応方法の紹介を行う

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

日中の様子が知りたい想いを抱えている保護者が多いことを知った。また、スキルの伸びに期待するだけでなく、身だしなみや食事、移動など日常生活動作に関する情報へのニーズが想定以上に見られた。

引き続き、長時間療育の特徴を生かし見学会の開催や面談を通じて、コミュニケーションスキルや日常生活動作の向上に繋がるよう家庭と連携を行いながら支援を行っていく。

事業所名 コンブリオ第二事業所

担当者 渡辺 大輔